



雲の上のまち



大報

わかすばら



四国カルスト姫鶴平

新年のあいさつ 〈P2〜〉

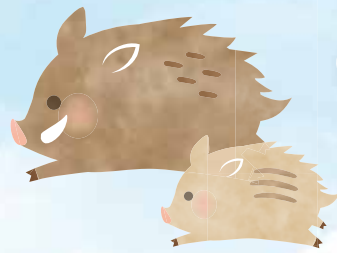
学園・こども園だより〈P10〜〉

ダッパン先生コラム(最終回) 〈P12〉

etc...

...

迎春



新年号 **2019** 〈平成31年〉
No.727

- 世帯数/1,798 (11月末)
- 人口/3,539 (11月末)

謹んで新年のお慶びを申し上げます

旧年中は大変お世話になりました。本年が皆様方にとりまして、良き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。
 平成三十一年 元旦

梶原町長 吉田 尚人



早いもので、町長として就任させていただき、1年が過ぎました。就任して早々、町民の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。

この1年間を通して感じてきたことを生かしながらしつかりとした町づくりに取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

昨年は、2月の大寒波、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、台風12号、21号、24号、25号、さらには、北海道胆振東部地震と自然の猛威に襲われた1年でした。

多くの皆さんの尊い命が奪われ、各地で甚大な被害が発生いたしました。

お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈りし、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

本町でも大変な土砂災害が発生し、住宅被害も発生いたしました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。

国による災害査定を受け、早期

の復旧に全力で取り組んでまいります。

近年の災害は、年々強大化するとともに、予想もなかった台風の進路など、これまでの経験が参考にならないような状況となつてきております。

そうした自然環境の変化にさらされる中でも安心して暮らすことができる体制づくりに取り組んでまいりたいと考えています。

そのためには、行政、地域、町民の皆さんの役割をしつかりと議論し、できることから取り組んでいくことが必要であると考えております。

私は、町民の皆さんがそれぞれの生きがいや幸福感を感じながら安心して安全に暮らせるまちづくりを進めていきたいと申し上げます。

そして、その実現に向けて「子々孫々に幸せな暮らしを伝える理想郷梶原へ」、「世界の課題解決先進地域として経済を再生し、自然と共にある豊かな町民生活の実現」を目指すことをビジョンとして掲げ、着実に取り組んでまいりたい

と考えております。

一方、時代は大きく変化しており、これまでの梶原を築いてきた仕組みだけでは社会の進化に取り残されてしまふ危険性を抱えています。

そうした時代の中で井の中の蛙にならず、時代の流れに乗り遅れないためには大きな意識の変化が必要であることを学んだ一年でもありました。

幸いなことに、梶原町には、私たちがとつては当たり前のことと受け止めてきていますが、町外から見れば素晴らしい資源や資産がたくさんあります。

それは、この町の先人の皆さんが、将来の幸せな町づくりのために汗水流して作り上げ、守り伝えていただいた宝であると考えています。

今こそこの宝に磨きをかけ、より高い価値をつけることによつて、様々な課題を解決しなければならぬ岐路に差し掛かっていると考えています。

これまでは、行政主導で多くのことに取り組んでまいりました。その取り組みは、わが町を「辺境の地」から「行ってみたい町」へと脱皮させるために不可欠な取り組みであり、その結果素晴らしい資源を数多く持つ町になったことは疑いありません。

しかし、さらに将来に向けて、子や孫の世代が笑顔で生き生きと

誇りと自信を持つて暮らしていただける町をつくるためには、今こそ大きな価値観の変化を遂げる必要があると考えております。

そのためには、町内外の様々な分野で活躍していらつしやる皆さんと、互いを尊重しあい、認め合う協力関係を築くことが不可欠であるとと考えております。

そうした関係を大切にする中で、その方々の知識や組織力など様々な知恵を提供いただき、アドバイスいただきながら、この町のあるべき姿を描くとともに支援を受けることが必要であると考えております。

その支援策をもとに、地域の力を合わせ、未来に向けてしつかりとつながっていく梶原づくりに取り組んでまいりますので町民の皆さんのご理解とご協力、ご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げますとともに、今年が皆様にとって素晴らしい年となることとお祈り申し上げます。

梶原町役場

- 梶原町長 吉田 尚人
- 副町長 久保 栄八
- 外職員 一同
- 監査委員 山口 敏
- 川上 寿 久

謹んで新年のお慶びを申し上げます

皆様におかれましては、すがすがしく
新春をお迎えすることと心よりお慶び申し上げます。
平成三十一年 元旦

梶原町議会議長 土釜 清



平成31年の年頭に当たり、梶原町議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、平素より町政の発展と議会運営に対して、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

日本の経済は、緩やかな回復基調が続いているものの、急速な少子・高齢化、本格的な人口減少社会が到来し、特に多くの町村においては、若年人口の減少により地域経済は衰退し、地域の活力は大変厳しい状況にあります。

本町においても、若者の流出などによる人口の減少に伴い、町税収入の伸び悩みや地域の伝統・文化の継承の危機に直面するなど、多くの課題を抱えております。現在、新たな発想や創意工夫を生か

した「梶原町総合戦略」等に基づき、住民等と一体となって本格的な事業展開に取り組んでいるところであります。特に、移住定住施策や子育て世代においても、結婚・出産や住まいの取得などの機会に、本町での定住を選択してもらえよう、子育てしやすい環境を整え、暮らしやすく魅力のある地域づくりを目指しているところであります。

今、まちづくりは時代の流れとともに斬新な発想を必要としており、未来を切り拓いていくには、我々議員にも新たな時代感覚と信念と目標を持つて一翼を担うべくことが求められております。議会の果たすべき役割と責任を自覚し、自らが将来の成長・発展の糧となるような地域資源を掘り起こしそれらを活用していく取り組みを執行部とともに息長く進めてまいりたいと思っております。

大変厳しい時代に、地方はまさに生き残りをかけた正念場を迎えているといっても過言ではありません。議員は町民の皆様の代表であるという認識をこれまで以上に持ち、信頼される議会を目指し、全ての町民の皆様が日々の生活の中で、一筋の光を見出すことができるよう、今年も議会活動・議会運営に努めてまいります。

結びにあたり今後とも、町民の皆様への負託に応えられるよう、心を一つに英知を結集して、町政発展に精力的に臨んでまいりますので、変わらぬご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

平成から新しい元号への移行、町議会議員選挙、今年はまだに新たな時代の始まりを予感させます。この新しい年が皆様にとって実り多い年となりますことをご祈念申し上げます、年頭のあいさつとさせていただきます。

梶原町議会

梶原町議会
議長 土釜 清
副議長 市川 岩亀

議会運営委員会

委員長 二宮 近雄
副委員長 川上 寿久
委員 下元 秀俊
中岡 俊輔
中越 計清
西川 慶男

総務教育厚生常任委員会

委員長 西川 慶男
副委員長 二宮 近雄
委員 川上 寿久
土釜 清
市川 岩亀

産業建設常任委員会

委員長 下元 秀俊
副委員長 中岡 俊輔
委員 土釜 清
市川 岩亀
中越 計清

議会広報編集委員会

委員長 中岡 俊輔
副委員長 下元 秀俊
委員 川上 寿久
二宮 近雄
市川 岩亀
中越 計清
西川 慶男

新春のおよろこびを申し上げます

明けましておめでとうございます。皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平成三十一年 元旦

梶原町教育委員会 教育長 矢野 準也



旧年中は本町の教育行政にご支援・ご協力賜りまして、厚く感謝を申し上げます。

さて、第6次梶原町総合振興計画の6つの目指す社会の中の「自信あふれる梶原人を育てる教育の確立した社会」並びに「人の尊厳が守られ絆を大切に作る社会」の実現に向けた取り組みの1つとして、町内全域を学びの場として位置付けた梶原町立図書館「愛称…雲の上の図書館」が、昨年5月にオープンし、町民の皆様をはじめ、町外からも多くの方にお越しいただきました。今後も子どもから大人まで多くの町民の皆様の集いの場所となるよう、愛される図書館を目指して努めてまいります。

また、子育て親子が交流できる居場所づくりとして、図書館内に梶原町地域子育て支援センター「愛称…カンガルーのおなか」を開所し、保育士を週3日半日配置し、来所した親子と絵本の読み聞

かせや、子育てに関する情報発信を行っております。

そして、梶原学園では、小中一貫教育の取り組みも8年目を迎えました。一昨年に梶原学園に導入しましたタブレット端末を活用したICTによる授業をより活発にするため、学園職員がICT教育の先進地である三重県松阪市へ視察研修に行き、授業内容の向上に向けて取り組みました。

また、中学生の夏休みの海外研修については、高幡広域市町村圏事務組合主催のカナダ研修に3名の生徒が参加し、英語力とコミュニケーション能力の向上を図りました。また、外国語指導助手を保育小中学校へ配置し、英語に親しみ、英語力の定着と向上に向けた取り組みを進めてまいりました。

更に、5月1日には株式会社リクルートと業務委託契約を結び、社員である安藤崇敬氏を町の教育顧問、一貫教育支援センター所長

として任命し、①子ども一人ひとりの学力伸長②先生の生産性向上③18歳までの安心・共創教育の3つをミッションとして取り組んでいただいております。

幼児教育に関しては、「幼保連携型認定こども園」を設置して4年目となり、これまで同様に子育て支援の充実に取り組みしました。

幼小連携教育を推進するため、幼児教育アドバイザーとして日向國雄氏にお越しいただき、これまでの経験も生かしながら、保育教諭の育成と幼児教育にご尽力いただいております。

隣接する梶原町総合福祉施設「愛称…YURURIゆすはら」の高齢者と園児との交流も始めることができました。

梶原高校では、中高連携の取り組みとして、教員がお互いに授業交流や、高校生と園児と一緒に農業体験や避難訓練を行っております。また、保育実習を行い、地域に根ざした活動を行っております。また、中高が連携し、大学進学に向けた学習支援や野球部をはじめとする部活動の充実などの成果により、

昨年の梶原中学校からの梶高進学率は過去最高の92%となりました。

生涯学習におきましては、生涯を通して豊かな人生を送るための

学習、心身ともに健康を目指したスポーツの推進、芸術・文化振興等の支援、各種社会教育団体への支援を行っております。

地域ぐるみの取り組みである学校応援団の活動では、昨年は文部科学大臣表彰を受賞することができました。これもひとえに、地域の皆様のご協力をいただいたおかげと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

コミュニケーションにおきましては、学校と地域が情報の共有ができるようになり、学校運営に協力と理解をいただくことができました。今後更に多くの地域の方々に学校に関心をもっていただき、地域の子どもたちを地域全体で育てていくことを目指して取り組んでまいりますので、ご協力を賜りますようお願いいたします。

本年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げます。上げ新年のご挨拶といたします。

梶原町教育委員会

- 教育長 矢野 準也
- 教育長職務代理 岩本 直也
- 教育委員 掛橋 水
- 西岡 利晃
- 川上めぐみ

謹んで新年のお慶びを申し上げます

輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。平成三十一年 元旦

高幡消防組合 梶原消防団 団長 森田 耕一



地域の皆様には、平素より我々消防団、女性消防隊、少年消防クラブそして梶原こども園幼年消防クラブに温かいご支援、ご協力を賜わりまして、衷心より厚くお礼申し上げます。

また、団員・隊員の皆様には火災をはじめ各種の災害から地域の安心・安全を守るため昼夜を問わず献身的にご尽力いただき感謝申し上げます。

昨年各地で、地震・台風・大雨等による自然災害が後を絶たず、各地に甚大な被害がもたらされました。

6月には大阪府北部で大規模な地震が発生し建物の倒壊や半壊などの人的・物的被害が発生しました。

7月には台風7号及び梅雨前線による記録的な大雨となり土砂崩れや浸水などの被害が多く発生し、本町でも土砂災害や暗渠詰まりによる浸水が発生しました。

9月には北海道胆振東部地震が

発生しました。

昨年の災害で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、犠牲となられた方々のご冥福と1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本町においては、4月に小屋が焼ける火災が発生しました。夜間ということで見えが遅れましたが人的被害がなかったことは幸いです。

昨年の消防団及び女性消防隊の活動としましては、2月11日に恒例の出初式を行いました。

4月1日には入団式を行い、6名の新人団員及び4名の新人隊員を迎えるとともに、新たに幹部となった団員に辞令交付を行いました。

5月には高知県消防大会が県民体育館で開催され、梶原消防団が「高知県知事表彰 竿頭綬」、梶原町女性消防隊と梶原学園少年消防クラブが「日本防火・防災協会会長表彰」を、また、団員や団員の配

偶者の中から「消防庁長官表彰 年勤続功労章」1名、「高知県知事消防団員配偶者功労感謝状」を3名が受賞された事は誠に喜ばしいことであります。

7月1日には、恒例の梶原消防団・女性消防隊連合演習を開催し、消防団員の日頃の訓練成果を遺憾なく発揮しました。

7月15日には、西日本豪雨災害で被災した西予市野村町に西部四国山地相互応援協定に基づき津野消防団とともに復興支援に赴き、被災後間もない災害現場を目の当たりにし復興支援に尽力してまいりました。

8月26日には、高幡消防組合総合演習が中土佐町で開催され、小型ポンプ操作の模範演技で第3分団が披露を行いました。缶落とし競技では梶原消防団が2位、女性ポール出し競技では梶原女性消防隊が2位という成績を収めました。

11月9日～11日まで、幹部が熊本地震・九州北部豪雨（福岡県朝倉市）の被災地研修を行いました。研修で学んだことを今後の消防団活動に生かせればと思っております。

消防団の装備充実につまましては、仲洞と川口の2カ所に40t防

火水槽を新設し、より迅速な消火活動が可能となりました。

本年も団員及び女性消防隊一同、町民の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

高幡消防組合梶原消防団

- 団 長 森田 耕一
- 副 団 長 玉川 義照
- 副 団 長 川上 博史
- 第一分団長 中越 義明
- 第二分団長 神明 文男
- 第三分団長 山本 浩辰
- 第四分団長 村田 澄夫
- 第五分団長 中越 修
- 消防主任 川田 宙大

梶原町女性消防隊

- 隊 長 川上まゆみ
- 副隊長 廣瀬吾紀子
- 書記 西村 典子
- 会計 西村麻理子

謹んで新年のお慶びを申し上げます

旧年中は組合事業推進につきまして、ご支援ご協力賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。
平成三十一年 元旦

梶原町森林組合代表理事組合長 森山 真二



国内の森林は、戦後や高度経済成長期に植採されたスギやヒノキなどの人工林が大きく育ち、木材として利用可能な時期を迎えようとしています。国内の森林はこれまでの育てる時代からさらに「伐つて、使つて、植える」という森林を循環的に利用していく新たな時代に入ったといえます。

一方、全国的に森林の所有は小規模・分散的で、長期的な林業の低迷や森林所有者の世代交代等により森林所有者の森林への関心が薄れ、森林の管理が適切に行われない、伐採した後植林がされないという事態が発生しています。これは、83%の市町村が管内の民有林の手入れが不足していると回答している状況であり、森林の適切な経営管理が行われないと、災害防止や地球温暖化防止など森林の公益的機能の維持増進にも支障が生じることとなります。加えて、森林所有者不明や境界不明確等の課題もあり、森林の管理に非常に多くの労力が必要になるといった事態も発生します。

いない森林を、意欲と能力ある林業経営者に集積・集約化するとともに、それができない森林の管理を市町村が代わって行うことで、森林の経営管理を確保し、林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を図ることとしています。

また「森林環境譲与税(仮称)」については、平成31年度において開始することを踏まえて、森林組合系統としては、新たな森林整備に必要な安定的な財源確保となりました。

さらに梶原町水源地域森林整備交付金も2年間の延長となり、出荷者の出材意欲拡大や林業事業体の経営基盤の拡充にもつながっております。しかし、年当初の豪雪や夏場の長雨と西日本豪雨、連続大型台風の影響等で森林被害が多く発生をし、気象の悪条件による林産現場からの原木供給が販売加工事業へ必要量を供給できず、また猛暑による稼働状況の悪化が労働生産性を圧迫し、当年決算状況が厳しいものになっていきます。

平成30年度においては、原木取扱量は前年度を下回りはしますが、ペレット材を含め1万m³を超え、組合製材工場への原木供給、町外への素材販売も低調ながら進

捗し、ゆすはらペレット工場の原材料供給は順調に推移いたしました。また、森林所有者においても、交付金助成により、材代、補助金を含めた総収入が増加し、間伐や原木搬出意欲の増大につながっております。

また、森林整備事業では、29・30年台風災害による作業道の災害復旧事業を主体に、次年度に向けた経営計画への参加や、所有森林の相続や売買での名義の変更、また移転届け等による林家台帳の整理を行いました。

林産事業については、民間事業体の協力を得て、利用間伐に加え、皆伐事業に着手し、これからの梶原林業を担う人材の確保・育成を進めてまいりました。

加工事業では、引き続き四国、関西地域の工務店などの販売を通じて、家族単位やバスツアーを受け入れ、伐採祈願祭や製材工場の見学会、また関西方面での工務店主催のセミナー等に参加し、安心・安全な梶原産材の営業販売を行い、邸別受注生産の販路拡大に成果をあげることができました。

FSC森林認証は、18年目を迎え、10月には、FM森林認証(認証面積113,380ha)及びCOC加工流通過程認証(森林価値創造工場)についての年次監査を受けました。引き続き自然環境に優しい森林整備の実践や持続可能な林業経営を目指し、FSCブランドによる梶原産材の販路拡

大に努めてまいります。
平成31年度においても、森林組合経営については、まだまだ人材育成が必要で、町の当初予算で取り組みを検討いただいております「林業振興センター」の設立について、10年20年先を見据えた梶原林業の方向性を行政とともに情報や実績を共有し、梶原版の新たな森林管理システムによる集約化事業での間伐や皆伐による木材の増産、そしてFSCブランドを活用した販売事業の強化・拡大を進めてまいります。

本年度も、引き続き厳しい状況が予想されますが、役員一一致結東して事業を推進してまいりますので、組合員を始め関係機関の皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆様のご健康とご多幸をお祈りして新年のご挨拶いたします。

代表理事組合長 森山 真二
理 事 中越 利茂
山口 繁男
吉村 満寿夫
竹倉 茂一
山本 浩辰
中平 俊一
片岡 幸作
西村 寿勝
外職員一同

梶原町森林組合

代表理事 森山 真二
監 事 中越 利茂
参 事 山口 繁男
吉村 満寿夫
竹倉 茂一
山本 浩辰
中平 俊一
片岡 幸作
西村 寿勝
外職員一同

謹んで新年のお慶びを申し上げます

本年が皆様にとりまして、輝かしい一年でありますよう
 お祈り申し上げます。
 本年もよろしくお願ひします。
 平成三十一年 元旦
 梶原町商工会 会長 長山 和幸



町民の皆様には、日ごろより商
 工会活動にご協力いただき誠にあ
 りがとうございます。

我が国経済は、雇用・所得環境
 の改善が続く中で、各種政策の効
 果も相まって、緩やかな回復基調
 が続いていると言われています。

本県でも都会と取引がある企業
 は、収益が増加しています。しか
 しながら中小・小規模事業者が多
 数を占める本県、特に中山間地域、
 本町においては、景気回復の実感
 はなく、全国に先んじての少子高
 齢化や人口減少が進行し、地域経
 済が縮小しており、加えて人手不
 足も深刻化して、地域経済の衰退
 につながっています。そしてその
 事が本町の魅力の減少にもつな
 がっています。今こそ、商工会の
 役員が一丸となり、町を始め、
 区会の方々と各種団体の皆様と連
 携を密にし、全力で地域振興に取
 り組まなければなりません。また、
 地域経済団体の責務として伴走型

の企業支援による経営力の向上
 や、実効性のある地域活性化策の
 実行を共に進めてまいります。

この様な環境下、商工会には地
 域の経済団体として、また小規模
 事業者の経営支援機関としてその
 責務を果たすことが求められてお
 り、本年より小規模二法施行から
 節目とされる5年目を迎え、商工
 会が策定する経営発達支援計画等
 を通じた、経営支援の実効性を高
 める取り組みを進めてまいりま
 す。本商工会は初年度である事か
 ら、その具体的な効果的な進行計
 画を進化させるべく取り組んでい
 きます。

本年も地域振興の一翼を担う取
 り組みを進めてまいります。観光
 事業につきましては、本町の経済
 効果は6億円を超えるとの試算も
 あります。グルメまつりや高原ま
 つりを始めとする各種イベントに
 積極的に取り組み、町より委託さ
 れている観光交流案内所「まろう

ど館」を中心に各事業所との連携
 をより一層深め、経済効果を高め、
 梶原を元気にしたいと考えていま
 す。また商工会では、持続化補助
 金を活用し、事業者の持続的発展
 に尽力していきます。併せて、商
 工会職員の資質の向上を図り、こ
 れまで以上に地域の商工業者、地
 域の皆様より必要とされる商工会
 を目指し、取り組んでまいります。

特に今年は、消費税の増税が予定
 されている事から、消費税増税や
 軽減税率制度導入に向けて、周知
 徹底や個別相談に積極的に取り組
 んでまいります。

梶原町商工振興協同組合は、雲
 の上の施設群を町の指定管理者と
 して運営をしています。去年より
 お客様に少しでも喜んでいただけ
 るよう組合独自事業として「接客
 研修」を継続して取り組んでいま
 す。本町の玄関口として、お客様
 が満足し、職員も充実感が得られ
 る取り組みを進めてまいります。
 学校給食事業やカリスト会での食
 事を提供する事業も、食べる人も、
 作っている人も喜びを感じる職場
 を目指します。

本町も少子高齢化や、人口減少
 が進んでいます。が、経営改善事業や、

地域振興事業を、行政はもちろん、
 区会を始めとする各種団体と共に、
 「住んで良かった」元気な梶原町を
 目指し取り組みを進めてまいりま
 す。今後より一層のご支援、ご協
 力をお願い申し上げます。

今年も元号も変わります。新た
 な気持ちで全力を尽くします。今
 年一年が、本町で暮らしている全
 ての人、関わりのある全ての人が
 幸せ多い一年でありますように。

梶原町商工会

会 長 長山 和幸
 副会長 山本 浩辰

理 事 西岡 利晃
 〃 下元 正八
 〃 西川 陽子

〃 アウテンボーガルト千賀子
 〃 中山 一郎
 〃 中山 博行

〃 安井 謙二
 〃 木下 武

〃 上川 健一
 〃 中越 貞幸

〃 中越 哲臣
 〃 那須 孝幸

〃 戸梶 圧美
 〃 中村 俊夫

監 事 千光寺俊和
 〃 外職員一同



各種団体・機関等 ※順不同

梶原町区長会

会長(四万川区) 空岡 則明
 副会長(初瀬区) 矢野 敬明
 区長(越知面区) 川上 光章
 (西区) 西村 建雄
 (松原区) 松山 榮喜
 (東区) 氏原 隼雄

梶原町農業委員会

会長 山本 正澄
 会長職務代理 森田 呂弥
 委員 谷川 恵美
 農地利用最適化推進委員 上田 善啓
 岡林 勝
 高橋 正知
 中平 勝也
 川上 厚志

梶原町民生委員・児童委員協議会

会長 西村 正義
 副会長 高橋 勝也
 会計 稲垣真紀子
 監事 竹倉 政恵
 運営委員 中岡 勝寿
 渡辺 瑞枝

梶原町選挙管理委員会

主任児童委員 久岡 健市
 委員 川上 芳郎
 中越 泰子
 宮岡 恵
 高橋 正知
 吉村津貴子
 森野 晃代
 山本 幸代

高幡消防組合津野山分署

分署長 西森 文啓
 副分署長 那須 章
 外消防職員一同

梶原町交通安全全町民会議

会長 吉田 尚人
 副会長 土釜 清
 理事 長谷部 悟
 山中 照亞
 川上 壽雄
 沖田 純輔
 西森 峰雄
 西森 建基
 伊藤 一博
 上川 涉
 中越 靖
 河野 純雄
 石川 昇
 吉村 文伸
 松山 虎光

梶原町魚族保護会

会長 影浦 賢
 副会長 西村 要吉
 委員 村中 秀之
 戸田勇次郎
 山中 照亞
 松浦 博務
 木原 正利
 明神 武美
 氏原 昇佐
 松山 薫
 松山 虎光
 吉村 光義
 川上 慶久
 西川 慶男
 中越 緑

社会福祉法人カリスト会

理事長 中越 平
 理事 空岡 則明
 岡田 量
 岩崎 悦子
 熊岡 健
 二宮 佳奈
 山口 豪佑
 矢野 豪佑

交通安全指導員

(交通安全母の会) 山口真知子
 監事 青木 光夫
 土谷 善昭
 戸梶 隆光
 中越 浩一
 坂本 重男

人権擁護委員

代表 中平 宏
 委員 川上 寿久
 吉富 文

梶原町保護司会

会長 志手 功
 委員 高橋 勝也
 市川 吉朗
 松山 榮喜
 片岡 幸作
 氏原 昇佐

身体障害者相談員

宮本 友和

知的障害相談員

高橋 栄子

梶原町衛生組織連合会

会長 永橋 信弘
 副会長 西村 寿数
 川上 政志
 中岡 倫
 宮本千恵子
 久岡 俊彦

健康文化の里づくり推進員

11期生会長 西村 友祐

梶原町手をつなぐ親の会

会長 高橋 正知

身体障害者連盟

会長 宮本 友和

戦没者遺族会

会長 中越 計清
 副会長 中岡 憲三

あゆみの会

会長 藤原 良男

梶原町環境美化推進組合

組合長 島崎 勝男
 副組合長兼会計 岡村 善雄
 理事 神明 聖司
 西岡 利晃
 中越 譽
 中岡 誠
 岡林 勝
 石川 昇
 久岡 喜美
 若宮 康秀
 中越 大善

梶原町廃棄物減量等推進員連絡協議会

会長 西川 陽子
 副会長 上田 知子
 推進員 川上 一美
 川上 善子
 岩本 美奈
 廣瀬 栄子
 来米 彩
 玉川太得子
 中岡 幸恵
 中越 信子
 氏原 孝子
 下元 孝子
 若宮 康秀

推進員
中越 早苗
西岡 利晃

梶原町広報委員会

委員長 上田 末喜
副委員長 西村 幸美
委員 梶原 哲哉
吉富 文
吉村 文
久保 栄八

図書館協議会

委員長 高橋 正知
副委員長 吉村 正知
委員 上田 末喜
空岡 則明
加藤 和嘉子
西村 玉子
高橋 志治
氏次 悟
西村 麻理子
久岡 智子

社会教育委員・公民館運営審議会

委員長 空岡 則明
副委員長 久岡 智子
委員 二宮 近雄
下元 秀俊
長山 和幸
山中 照亞
氏次 悟
志手 功
山内 孝信
西村 正義
坂本 重男
山口 眞知子

委員 西村 麻理子
二神 貴登

梶原町文化財審議会

会長 西村 信明
副会長 神明 靖
委員 梶原 哲哉
松本 州平
土谷 善昭
松山 榮喜

梶原町人権教育研究協議会

会長 氏次 悟
副会長 高橋 志治
久米 秀人
小笠原 理佳

梶原学園校長

氏次 悟

梶原高等学校校長

高橋 志治

津野山神楽保存会

会長 吉田 尚人
副会長 掛橋 與四郎
神明 靖
中越 計清
前田 稔
中越 定一
久保 栄八
矢野 準也
川上 寿久
中越 和仁

梶原町スポーツ推進委員

委員長 西村 俊二

副委員長 氏原 哲哉
委員 谷田 真吾
田尾 欣三
中平 則一
川田 篤史
下村 秀仁

梶原町体育会

会長 坂本 重男

梶原町青少年健全育成町民会議

会長 志手 功
副会長 矢野 準也

梶原町老人クラブ連合会

会長 山中 照亞
副会長 志手 功
西添 正三
津野 壽正
氏原 寿雄
中越 順一

梶原町婦人会

会長 山口 眞知子
副会長 中越 郁子
上田 知子
中山 昭子
岡林 美枝子
掛橋 初子

梶原町連合青年団

団長 高橋 元気

副団長 下元 慶太
事務局長兼会計 二神 貴登
山内 孝信

梶原町文化協会

会長 久岡 智子
副会長 影浦 賢
西村 友祐
二宮 幸加
高橋 正知
中越 磨子

梶原ゲートボール連合会

会長 岩本 直也
副会長 杉坂 博
上田 夏美

一般社団法人津野山畜産公社

事務局長兼センター長 佐竹 紀章
牧場長 永尾 健一郎
職員 西森 勘介
中岡 芳高
川上 真澄
永尾 啓太
玉川 伊代菜
西添 智枝美

津野山広域事務組合

クリンセンター 四万十
職員 山下 正貴
下村 昭太

株式会社雲の上

工場長 大野 喜美男
職員 中越 祥子

職員 下村 秀仁

高知県高幡食品衛生協会梶原分会

分会長 新谷 章男

梶原町エプロン会 (食生活改善推進協議会)

会長 戸梶 庄美

梶原町精神障害者家族会

会長 長山 久美子

NPO法人 梶原竹ぼうきの会

理事長 中越 計清

NPO法人 絆

理事長 矢野 豪佑

シルバー人材センター

会長 掛橋 勤

梶原学園だより VOL.79

秋の遠足

11月16日(金)、バスに乗って遠足に行きました。1、2年生は高知駅から、電車に乗り換えて、わんぱーくこうちに行きました。3、4年生は高知市中央卸売市場で社会科見学し、その後わんぱーくこうちへ行きまし



モルモットをだっこする子どもたち



僕はトラになるんだ!!



えさをあげる8、9年



洞窟探検!!



ハイポーズ!!

た。5、6、7年生は龍河洞に行き洞窟に入ったり、キャンプ作りを楽しみました。8、9年生はオーテピアで科学の勉強をし、その後桂浜で楽しみました。どの学年も出し物やレクなどもあり、とても楽しい遠足になりました。

梶原高校の先生が出前授業

11月15日(木)、中高連携教育のため、梶原高校の先生が9年生に授業をしてくれました。1時間が社会、2時間は農業で、高校でどのように学ぶのか、牛乳からバターのできる様子等、楽しく、熱心に学びました。多くの生徒が梶原高校に興味を持ったことでしょうか。梶原高校の先生ありがとうございました。



バター作りをする9年生

劇団わらび座来校

12月3日(月)・4日(火)、劇団わらび座の団員さんたちに、2月16日(土)に行う学習発表会の5、6年生の出し物の指導をしていただきました。とても楽しく教えてくれました。毎年来てくれています。

一部の記事はホームページでも見ることができます。
(http://www.yusunaragakuen.jp/)



真剣に練習する5、6年生



栲原こども園だより



幼児組 参観日

12月1日(土)は、幼児組の参観日「おたのしみかい」でした。踊りや歌、お話遊びを保護者の前で発表しました。嬉しかったり恥ずかしかったり、子どもたちのいろいろな姿がありました。友達と一緒に頑張りました。

「おたのしみかい」は子どもたちが主体となって楽しめるよう導入しました。発達段階に合わせた内容や、お話のイメージの中で役になって、楽しさを感じながら表現遊びへとつながるよう各組がそれぞれ取り組みました。

ぞう組では、子どもたちが先月の神祭で見た「浦安の舞」をやってみようと言いました。子どもたちはみんな満足感を味わっていました。



わえた「おたのしみかい」となりました。

1年生との交流

年長児は、1年生との交流を年に7回行っています

12月は、1年生にお祭りの招待状をもらい7日(金)に「ドキドキキラキラまつり」に行きました。1年生からの挨拶があり、ゲームの名前がかかれたメダルをもらい、お祭りスタート！はじめは、緊張している姿も見られましたが、1年生の「いらっしやいませー！」「○○はいかがですかー？」などの誘いの声で、お店を回るとメダルに一つずつシールをもらえることが嬉しくて、友達を誘ったりしながらゲームを楽しんでいました。

1年生の丁寧なゲームの説明や「すごい」「こつちもやってみる？」などの優しい声掛け・盛り上げ方に年長児も楽しんでいました。どのゲームも手作りでも、子どもたちにとっても身近な教材でこんな遊び方ができるんだなと、感じることもできたと思います。



ます。

園に帰り、1年生へお礼の手紙を書きました。後日、届けに行った時、授業の様子も見学させていただきました。遊んでいる時とは違った1年生の姿に子どもたちも「すごいね」と釘づけになっていました。園でもかっこいい姿勢・挨拶などをお手本にしながら1年生への憧れの気持ちも高まりつつあります。

1年生にもぞう組からのお礼の手紙を喜んでもらったようです。交流活動からいろいろな経験ができた機会となりました。

親子クッキング

12日(水)に、エプロン会の方と一緒に年長児と保護者による「親子クッキング」がありました。5グループに分かれ、エプロン会の方と一緒に



に5品作りしました。子どもが主体となり料理を作ることができるよう、食材を洗ったり、皮をむいたり、切ったり、こねたり……自分

たちでできることを経験させながら一緒に作っていました。みんなで作ったり、食べたりすることを楽しんでいたり子どもたちでした。料理も野菜のおいしさを生かした味付けで、バランスの良いものばかりでした。エプロン会の皆様、ありがとうございました。



一部の記事はホームページでも見ることができます。
(<http://www.yusuharakodomo.jp/>)

第3回

2040年の梶原の未来と一緒に 「教育を変える (study shift)」で創りましょう

こんにちは、ダッパン先生こと安藤崇敬(あんどう・たかひろ)と申します。最近、ようやく「ダッパン先生！」と子どもにも声をかけてもらえるようになりました。さて、今回は最後の寄稿になります。前回の3つの質問は皆さん考えてくださいましたか。まだの方はここで読むのをやめて考えてみてください。

【問い1/日本の漫然と迎える未来を考える】

100年後(2115年)、日本の人口は何人になるでしょうか？

● 答え↓5055万人(2015年時点、1億2710万人)

【問い2/地方の漫然と迎える未来を考える】

高知県で育った高校生は、社会人(25歳以降)になって何人(何%)が高知県に住んでいるでしょうか？

● 答え↓34%。しかも多くの若者は高知市内近辺在住。

【問い3/子どもに漫然と迎えさせる未来を考える】

2007年以降に生まれた日本の子どもの平均寿命は何才になるでしょうか？

● 答え↓107歳(2114年まで生きる)

さて皆さん、答えを知って日本の

未来についていかが感じただでしょうか。日本はこの100年で一気に人口減少が進み、人口は半分以下となります。梶原町ではさらに人口減少は加速しており、2040年の梶原の人口は38%減って、2250人になると推計されています(2015年4月1日時点/3608人)。特に年少人口(0才~14才)は47%減るとなっています。高知全体でも3分の1しか若者が戻ってこない現実の中で、さらに山間地域にある梶原町はどうなるのでしょうか。また今の子どもは100年以上生きられる時代で、一体「どこ」で「何をすれば」幸せを感じて人生を謳歌できるのでしょうか。

未来のお話なので正直どうなるかはわかりません。しかしだからこそまず一人ひとりが未来を想像することとが大事です。なぜなら想像できれば未来を変える「一歩を踏み出す」行動に繋がることができるからです。誰も、何も想像しなければ「漫然と迎える未来」が確実に訪れるでしょう。いま皆さんが想像した未来が明るくない未来をイメージしたのであればぜひ一緒に明るい未来に変えるために一緒に行動しましょう。

私は日本の豊かさは地方に、地域にあると考えております。私はその

地域の豊かさを教育で変えることで若者たち自身で守っていく、発展させていけると強く信じています。子どもが生まれ育った地域を、自らが地域を支える当事者として活躍できるようにになれば、きっと明るい梶原の未来を創れると考えています。そして人にとって一番生きたい、幸せを感じられるのは「半径5m以内の一番大切な人たち(家族)」を幸せにすること」だと考えています。

私にとって、梶原町の未来を創る行動が、2040年の未来の梶原町を意識した教育体制の整備「18歳までの安心教育・共創教育」の実現です。0歳から18歳までを個々の子どもにとって学力を伸ばし続ける「安心教育」環境が構築できれば町外や県外に出て行くこともなくなると考えています。それを私は町が整備してくれた情報テクノロジーを活用することで、先生にとっての働きやすさ(生産性向上)とともに実現させて行く仕組みを構築する予定です。その上で、0歳から18歳まで一貫して育むことができるからこそ取り組める「共創教育」、つまり「梶原の文化・歴史を知る、理解するだけでなく、梶原を発展させる当事者として課題を発見し、解決できる自信溢れる梶原人育成」に力を入れていきたいと考えています。生まれが梶原

町でなくとも、梶原で18歳まで育ませてもらえる機会によって、その子どもたちも、自身の故郷に貢献できる課題発見、解決型人材にする覚悟です。

私は教育顧問兼一貫教育支援センター所長となり、移住して1年も経っていませんが、「教育は(梶原の未来を変える、自分自身の未来を掴む)一歩踏み出すため」を大切に、地域の皆様の意見も踏まえて取り組んでまいります。ぜひ一緒に100年後も日本で一番輝く田舎「梶原」を実現させるためにお力を貸してもらえると幸いです。

最後になりますが、ぜひ日本の未来を想像してもらうために、「Society5.0」というCM動画をご覧ください。こちらは、Youtubeで「Society5.0」で検索してもらえれば見ることができま。その上で私からの最後の問いです。一体この未来は20XX年でしょうか。またこの未来を作ったのは誰でしょうか。答えが知りたい方は、ぜひ図書館までお越しください。姿勢でお待ちしておりますので気軽に声をかけてください。



高幡租税債権管理機構及び須崎市、四万十町からのお知らせ
不動産合同公売会について

公売とは

「公売」とは、滞納税に充てるために差押えをした財産を売却することです。具体的には、公売会場において見積価額以上の金額を入札していただき、最高価額の入札者に売却していくもので、裁判所の行っている競売に類したものです。

高幡租税債権管理機構及び須崎市、四万十町の方針

行政サービスを支える財源の確保に向けて、差押えした財産は、随時、公売を行って税収に充てています。滞納の解消、税収確保のために多くの皆さんの参加をお待ちしています。

合同公売会

- 日時／3月8日（金）
- 開場／13時30分 入札／14時
- 会場／須崎市総合保健福祉センター2階会議室

（須崎市山手町1-7）

※今回は、高幡租税債権管理機構及び須崎市、四万十町の合同公売会の形式で、雑種地や農地などを売却します。

公売物件

（所在地・地目種類等・登記地積）

- ① 須崎市浦ノ内 雑種地 1、370㎡
- ② 須崎市大谷字宮ノ西 宅地 41・00㎡
- ③ 四万十町興津 宅地・居宅 251・66㎡
- ④ 四万十町七里 田 1、622㎡
- ⑤ 四万十町高野字桜谷 田 2、013㎡

※①②は須崎市、③④は四万十町、⑤は高幡租税債権管理機構が出品する物件です。
※各物件について、状況によって公売が中止になる場合があります。

入札に必要なもの

《全員》保証金（見積価額の約10%、現金に限る）、運転免許証など身分を証するもの、印鑑

（認印）

《代理人》委任状

※公売物件が農地の場合は、農業委員会発行の「買受適格証明書」が必要です。

（今回は、四万十町の農業委員会へ2月8日までに申請していただくこととなります。）

その他

■ 保証金納付期限

3月8日（金）14時

保証金は見積価額の約10%と定められています。

■ 買受代金納付期限

3月15日（金）14時

買受代金は落札額から保証金を控除した金額です。

■ 所有権移転登記

費用負担と住民票等の提出を条件として、執行機関が代行することができます。

※公売や物件の詳細（見積価額等）は、高幡租税債権管理機構のホームページをご覧ください。

連絡先にお問い合わせください。

【連絡先】

高幡租税債権管理機構

住所／須崎市山手町1-7

☎0889・40・0911

須崎市役所税務課

住所／須崎市山手町1-7

☎0889・42・1291

四万十町役場税務課

住所／四万十町琴平町16-17

☎0880・22・3116

放送大学
入学生募集のお知らせ

放送大学は、4月入学生を募集しています。

■ 心理学・福祉・経済・歴史・文学・情報・自然科学など、約300の幅広い授業科目があり、1科目から学ぶことができます。

■ 全国に学習センターが設置されており、サークル活動などの学生の交流も行われています。

■ 資料を無料で差し上げています。お気軽に放送大学高知学習センター（☎088・843・4864）までご請求下さい。
■ 出願期間は、第1回は2月28日まで、第2回は3月17日まで。

須崎税務署からのお知らせ

平成30年分所得税、贈与税、消費税等の確定申告における申告会場設置について

所在地等

須崎税務署1階事務室 (須崎市青木町1-4)

☎0889-42-2355 (代表)

開設期間

平成31年2月18日(月)～3月15日(金) (土、日曜日を除く)

受付時間

午前8時30分～午後4時 (相談開始は午前9時から)

注意事項

右記期間より前は、確定申告会場を設置しておりませんのでご注意ください。(ただし作成済み申告書等の提出は受け付けています。)

期間中は大変混雑しますので、ご自宅で申告書が作成できる国税庁ホームページ「確定申告書等作成コーナー」を是非ご利用ください。

用ください。

平成30年分の所得税、贈与税及び消費税の確定申告書については、マイナンバーの記載と本人確認書類の提示又は写しの添付が必要です。また、郵送等による提出の際には本人確認書類の写しの添付をお願いします。

電話による申告相談について

平成31年1月18日(金)から3月15日(金)まで、「確定申告電話相談センター」で所得税及び復興特別所得税・贈与税・消費税及び地方消費税の確定申告に関するご質問やご相談にお答えします。なお、土・日・祝日については、2月24日(日)及び3月3日(日)のみ、電話相談を行っております。所轄の税務署(須崎税務署 ☎0889-42-2355)にお電話いただき、自動音声案内に従い、『0』を選択してください。



南の島で国際交流 第43回ちびっこ探検学校 ヨロン島参加者募集

公益財団法人国際青少年研修協会(文部科学省所管)では、『第43回ちびっこ探検学校ヨロン島』の参加者を全国より募集しております。

この事業は、沖縄に近い南の島『ヨロン島』のサンゴ礁の海と美しい自然の中で、全国から参加する仲間との民宿での共同生活や、様々な野外活動(海水浴、イカダ作り&イカダこぎ、さとうきび刈り&絞り、洞窟探検、野外体験など)を通じて友達作りの楽しさを知り、お互いに協力し助け合い、積極的にチャレンジする心を養います。

また、在日外国人小学生と活動・生活を共にすることで、言語や習慣を超えて友情を深め、国際感覚を身に付ける第一歩とします。

今度の春休みは、思い出に残る楽しい体験をしに穏やかな南の島『ヨロン島』に行きませんか？

【期間】

平成31年3月27日(水)～4月2日(火) 6泊7日

※沖縄から参加の方は3月27日(水)～4月1日(月)

※奄美諸島(奄美大島、徳之島など)から参加の方は3月28日(木)～4月1日(月)

【場所】

鹿児島県大島郡与論町

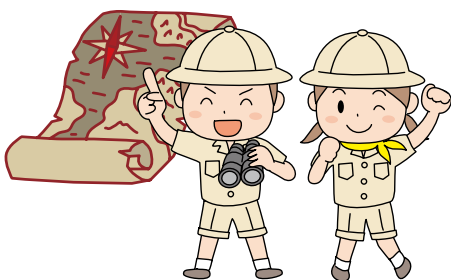
【定員】

日本人・在日外国人小学生300人(小学2年生～6年生…平成31年2月末)

【締切り】

平成31年3月5日(火) ホームページ

http://www.kssk.or.jp



相続登記相談のお知らせ

高知県司法書士会では、2月を「相続登記はお済みですか」月間と定め、相続登記の他、遺産分割、遺言、法定相続情報証明制度等、相続に関する様々なご相談に司法書士がお答えする無料相談会を開催します。

梶原町近隣の会場は左記のとおりです。予約不要ですので、ぜひお気軽にご利用ください。

日時

2月2日(土) 10時～15時

場所

四万十町役場本庁東庁舎

(高岡郡四万十町琴平町16番17号)

【問合せ先】

高知県司法書士会総合相談センター

☎088・825・3143



2月の行事予定

- 9日(土) 環境整備デイ
- 10日(日) 梶原消防団・女性消防隊出初式
- 16日(土) 梶原学園1～6年生学習発表会
- 18日(月) 所得申告受付開始
- 20日(水) 梶原交通安全の日
人権相談・行政相談



2月の保健福祉支援センター行事予定

- 1日(金) 初瀬いきいき
- 4日(月) げらげら家族会
- 6日(水) 松原サテライトデイサービス
- 7日(木) 四万川宅老所
- 12日(火) 愛育相談・妊婦相談
- 14日(木) 越知面デイ友の会
- 15日(金) 東区いきいき、大向宅老所
- 20日(水) 人権相談、西区いきいき(下西の川)
- 21日(木) 四万川宅老所
- 28日(木) 四万川いきいき

毎週月曜日 育児サークル(図書館内子育てコーナー)午前10時～12時
※子育て中に限らず、どなたでも参加できます。お母さんだけでもOK。ぜひ参加してください。お待ちしております。

毎週水曜日 予防接種(四種混合、麻疹・風疹[MR]、BCG、日本脳炎、子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌ワクチン、水ぼうそう、B型肝炎)

毎週金曜日 育児サークル(図書館内子育て相談室)午前10時～12時(図書館休館日は休み)。妊娠～子育てに関する相談に保健師・助産師が対応します。気軽に利用してください。

月曜日～金曜日 子育て世代包括支援センター(支援センター1階)
※妊娠や子育てに関する相談がありましたら、気軽においでください。(電話でも構いません。☎65-1170までお願いします。)

ゆすっこ相談センター相談日 5日(火)午後、12日(火)午後、19日(火)、26日(火)

川畑真理子心理カウンセラーの相談日(月2日) 18日(月)、19日(火)
※相談希望の方は、子育て世代包括支援センター☎65-1170までお願いします。

編集後記

新しい年の初めに、昨年を振り返りながら思うことがあります。

一つ目は、危機管理について。特に加齢になっているにもかかわらず、若い頃の気持ちを持つままの潤滑油が減っている自分の体の動きとのギャップを常に意識し、諸事基本に忠実な動作を心掛けることが肝要であること。

二つ目には、いろいろなことに悩んだ時でも、パートナーや家族、友達などがまわりにいてくれることの心強さ。自分一人ではないという自己肯定感とでもいうのでしょうか。

三つ目には、日々取り留めがなくても、「普通」(定義は難しいですが)であることの有難さに対する感謝の気持ちですね。

新しい年になったから、元号が代わるから、オリンピックが近づいたからといった過度な消費を喚起するような風潮に流されずに、奇異なものを求めず、真理を探究し、着実な歩みができる年でありますように、お互いに前進しましょう。

(広報編集委員会)

文芸

烏帽子俳句会

飾り干支犬から猪え年の暮 岩元 芙美
 侘助の咲き初む朝の静心^{しづこころ} 古野 節子
 礼状の長々となり年暮るる 下元 澄子
 霜の朝光りあふるる田も畑も ヒネ・バンビ
 竜の玉太古の海へ還るいろ 千光寺 昭子
 苦学せし頃のセーターそつと撫づ 宮崎 真由子
 石庭に読経の間こゆ石路の花 宇都宮由利子
 峡の灯のひとつずつ消ゆ霜夜かな 中越 律子
 今日ひと日心尽して冬麗 瀬戸口登貴恵
 里神楽大蛮あだ名で呼ばれたり 西村 智子
 シルバーカー並ぶ店頭冬麗 岩井 章子

杉の子俳句会

火を入れて熱い鉄打つ鍛冶始 影浦 鉄心
 小気味よい鉄の音や初床屋 下元 廣幸
 つややかな鏡餅なり子の頬つぺ 野中 胤雄
 三宝にはみ出している鏡餅 大崎みなと
 幼児も共に丸めし鏡もち 西村 蓉子
 寒月下袴きりりと舞太夫 西村 幸枝
 幼子を抱けばほんのり暖かし 氏原 陽子
 お正月高新クイズハガキ出す 明神伊佐子
 初空や稜線に二つ電波塔 川田 早苗
 辞書めくる音のかすかに初句会 久岡 智子
 どんど焼するめ押えに川原石 内野 純子
 賀状くる絵手紙の獅子跳び出して 掛橋 初子

柚子の木俳句会

うさぎりんご生れしそばから食べらるる 広瀬 みえ
 おさらいの時間はすこし忘年会 西村由利子
 平成や最後の師走松葉杖 西森 誠子
 正月や今年占う雲ひとつ 中平 忠雄
 境内に二十日念仏落葉舞う 中越 郁子
 凍空や半紙にくるむ袖べし六つ 渡辺 瑞枝
 りんご箱の宅配届く中みかん 中越 秋子
 神祭が迫り夜半に煮るりんご 吉田 敬子
 箱買いのみかん昭和の暮れの郷 広瀬 卓雄

学校応援団(俳句教室)

十二月ぞうぐみがるるゲームする 一年 西村倫汰朗
 ゆずの山三箱ぐらいしぼったよ 三年 西村 日汰
 今ごろはトナカイ空をきてるかなー 三年 福島 夢瑠
 おもいきりだいこんぬいたあなふかい 三年 坂本こうこ

川柳

川柳を知らぬがほとけすくいの手
 長寿国九十路の坂に仲間入り
 幸せに生きた平成走馬燈 西村 美子(三句掲載)

狂歌

あの顔も推定無罪法の下 河野 哲夫
 凄いネエ何かと問わば図書館の
 空に伸びたる柱の数々が 河野 哲夫

